

決算説明資料 -2025年3月期 第3四半期-

証券コード：3666
株式会社テクノスジャパン

2025年2月4日

LEAD THE CONNECTED SOCIETY TO THE FUTURE

～ つながる社会の未来を切り拓く ～

1. 決算概要（2025年3月期 第3四半期）
2. 業績見通し
3. 参考資料



















1. 決算概要（2025年3月期 第3四半期）

1	決算概要（2025年3月期 第3四半期）
2	業績見通し
3	参考資料

2025年3月期 第3四半期 業績・通期見通し サマリ

2025年3月期 第3四半期（累計） 全体サマリ

売上高・営業利益ともに前年同期比で増収増益
 売上高 : 107.4億円 前年同期比 +12.3億円、+13.0%
 営業利益 : 14.4億円 前年同期比 +2.7億円、+23.5%

		第2四半期 (累計)	第3・第4 四半期	業績・通期見通し	通期見通し
ソリューション ・サービス別 サマリ	ERP			SAP ・ 下期も引き続き堅調に成長する見通し	
				mcframe ・ 上期に想定案件が獲得できなかった影響で低調 ・ 市場環境が堅調なこともあり、下期は横ばい	
	CRM			国内 ・ 2Q時の想定通り下期は上期を下回る見通しだが、 通期では堅調に成長する見通し	
				海外 ・ 下期は上期を上回り堅調に成長する見通し	
	CBP			全体 ・ 上期は軟調であったが、下期は堅調に成長する見通し	
	その他			全体 ・ 下期は堅調に成長する見通し	

※天気アイコンは、前半期または前年度と比較した売上高の伸長度合いを表します。
 第2四半期（累計）は、2024年3月期第3・第4四半期から2025年3月期第1・第2四半期の売上高伸長
 第3・第4四半期は、2025年3月期第1・第2四半期から2025年3月期第3・第4四半期の売上高伸長
 通期見通しは、2024年3月期通期から2025年3月期通期（見通し）の売上高伸長

2025年3月期 第3四半期 経営成績（連結）

2025年3月期 第3四半期は売上・利益ともに概ね計画通りに進捗

（単位：百万円）

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比		2025年3月期 通期（計画）	
	実績	実績	増減	増減率	計画	達成率
売上高	9,509	10,742	1,233	13.0%	14,300	75.1%
売上総利益	3,039	3,754	715	23.5%	-	-
（売上総利益率）	32.0%	35.0%	-	-	-	-
営業利益	1,173	1,449	276	23.5%	1,638	88.5%
（営業利益率）	12.3%	13.5%	-	-	11.5%	-
経常利益	1,230	1,440	210	17.1%	1,644	87.6%
（経常利益率）	12.9%	13.4%	-	-	11.5%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,111	929	△181	△16.3%	1,138	81.7%
1株当たり 当期純利益（円）	57.89	48.35	△9.54	△16.5%	59.30	81.5%

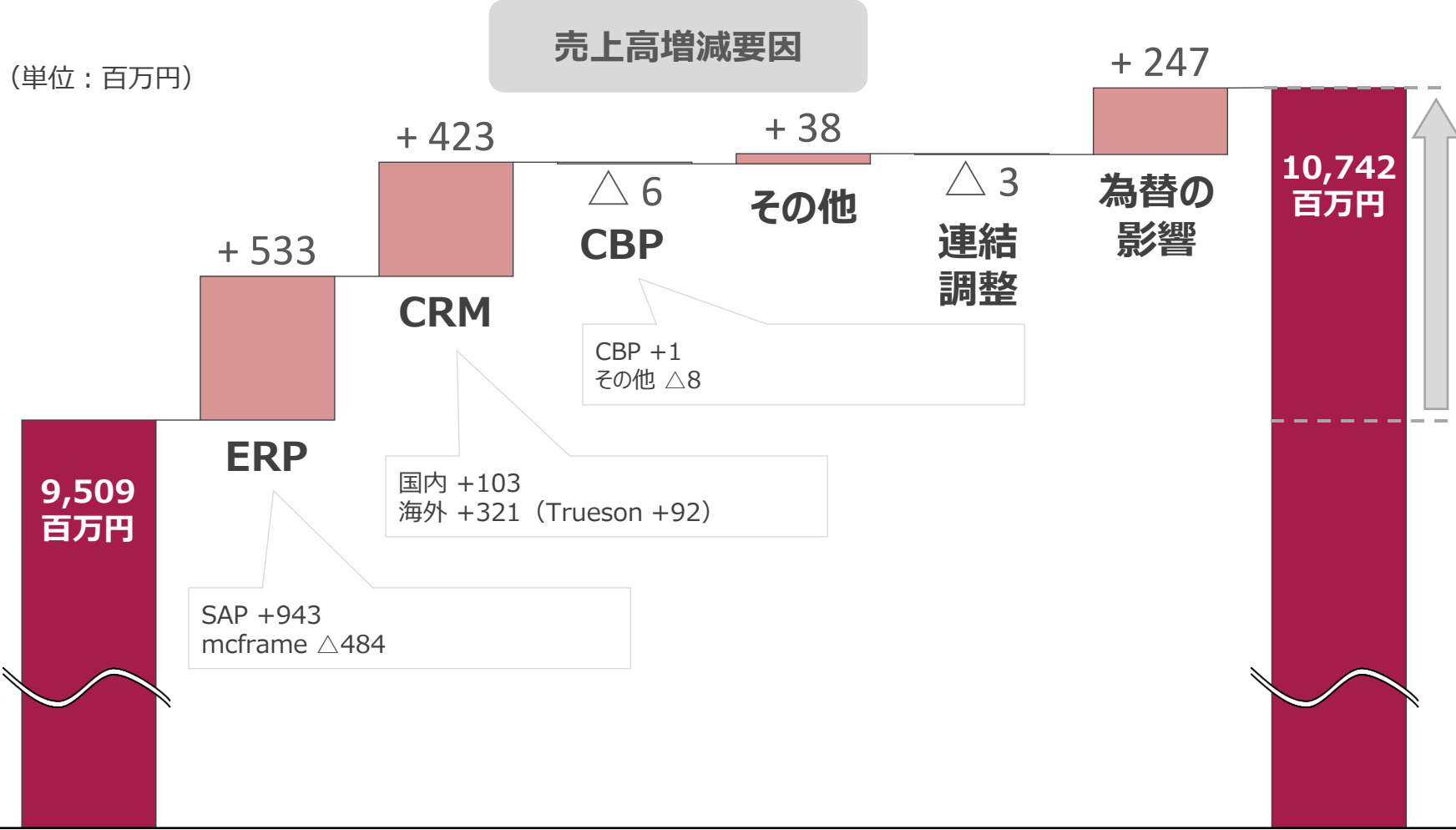
※当期純利益の前年比マイナスは前年度の投資有価証券売却による一時的な増益による影響

2025年3月期 第3四半期 売上高増減要因（連結）

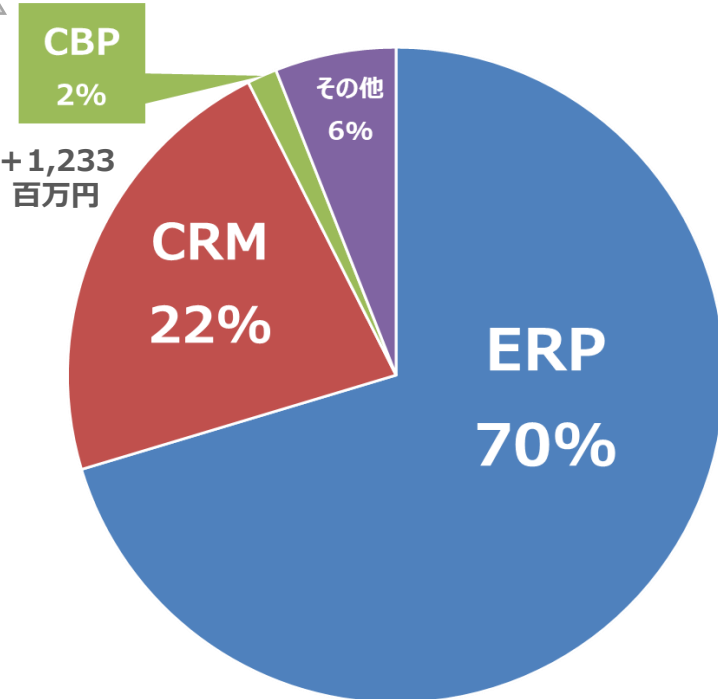
主力のSAP、CRMビジネスが業績を牽引

(単位：百万円)

売上高増減要因



ソリューション・サービス別売上構成

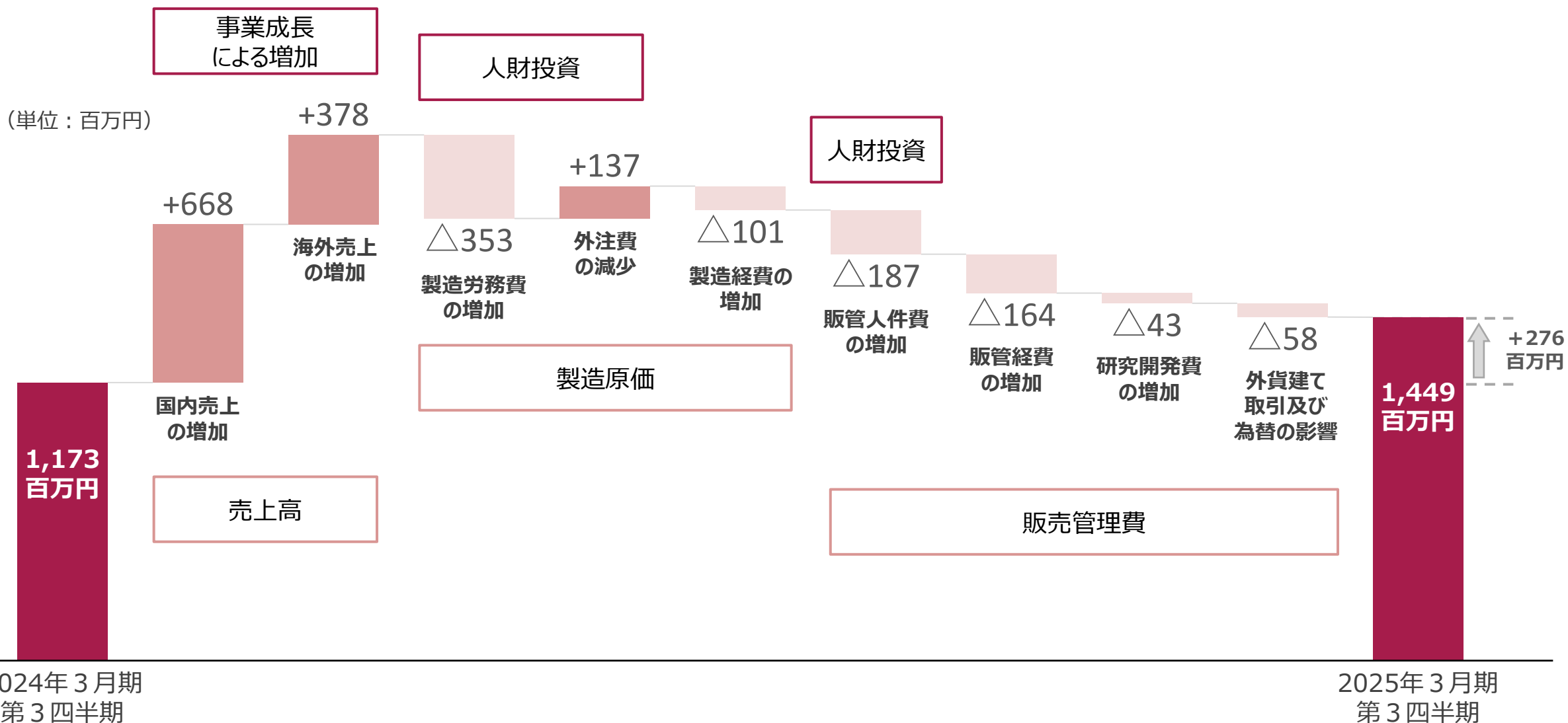


2024年3月期
第3四半期

2025年3月期
第3四半期

2025年3月期 第3四半期 営業利益増減要因（連結）

人財投資を上回る事業成長で営業利益増加



※為替の感応度は、営業利益で円とドルの関係において1円の変動で2.3百万円を試算しております。

2025年3月期 第3四半期 貸借対照表（連結）

自己資本比率は高水準を維持し、健全な財務基盤を維持

（単位：百万円）

	2024年3月期末		2025年3月期 第3四半期末			主な増減要因
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	
流動資産	6,972	70.4%	7,589	73.2%	616	現金及び預金 △ 138 売掛金 + 687 電子記録債権 + 58
固定資産	2,924	29.6%	2,784	26.8%	△140	のれん + 165 投資有価証券 △ 325
資産合計	9,897	100.0%	10,374	100.0%	476	-
流動負債	1,766	17.8%	2,163	20.9%	397	買掛金 + 130 未払金 + 62 前受金 + 170
固定負債	832	8.4%	682	6.6%	△150	長期借入金 △ 67 繰延税金負債（固定） △ 76
負債合計	2,599	26.3%	2,845	27.4%	246	-
純資産合計	7,298	73.7%	7,528	72.6%	229	その他有価証券評価差額金 △ 225 非支配株主持分 △ 69
負債・純資産合計	9,897	100.0%	10,374	100.0%	476	-
自己資本比率	72.5%	-	71.8%	-	-	-

2.業績見通し

1	決算概要（2025年3月期 第3四半期）
2	業績見通し
3	参考資料

2025年3月期 業績見通し（連結）

年初公表の通期計画から変更なし

（単位：百万円）

	2025年3月期 第3四半期	2025年3月期 通期（計画）	
	実績	計画	達成率
売上高	10,742	14,300	75.1%
営業利益	1,449	1,638	88.5%
（営業利益率）	13.5%	11.5%	-
経常利益	1,440	1,644	87.6%
（経常利益率）	13.4%	11.5%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	929	1,138	81.7%

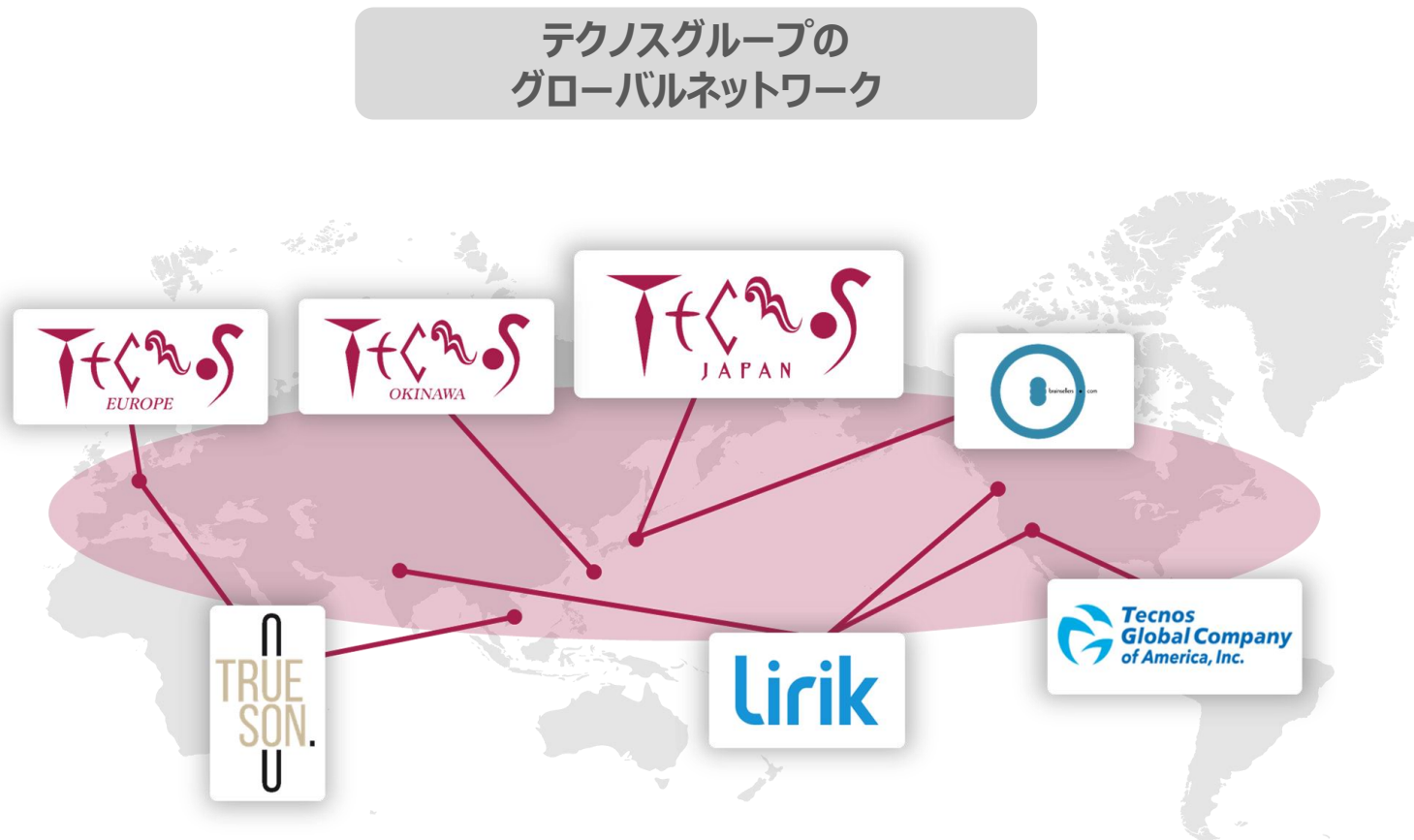
3. 参考資料

1	決算概要（2025年3月期 第3四半期）
2	業績見通し
3	参考資料

会社概要

テクノスジャパンは、「企業・人・データをつなぎ社会の発展に貢献する」をグループミッションとし、「企業のDX推進のためのソリューション・サービスを提供」する会社です

会社名	株式会社テクノスジャパン (英文名: TECNOS JAPAN INCORPORATED)
本社	〒163-1414 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー14階 TEL 03-3374-1212 (代表)
設立	1994年4月27日
資本金	5億6,252万円
証券コード	3666
市場区分	東京証券取引所 スタンダード市場
代表者	代表取締役 社長執行役員 吉岡 隆
従業員数	単体446名 連結864名 ※2024年10月1日現在
URL	https://www.tecnos.co.jp/



テクノスジャパン成長の軌跡

企業のDX推進のためのソリューション・サービスを提供

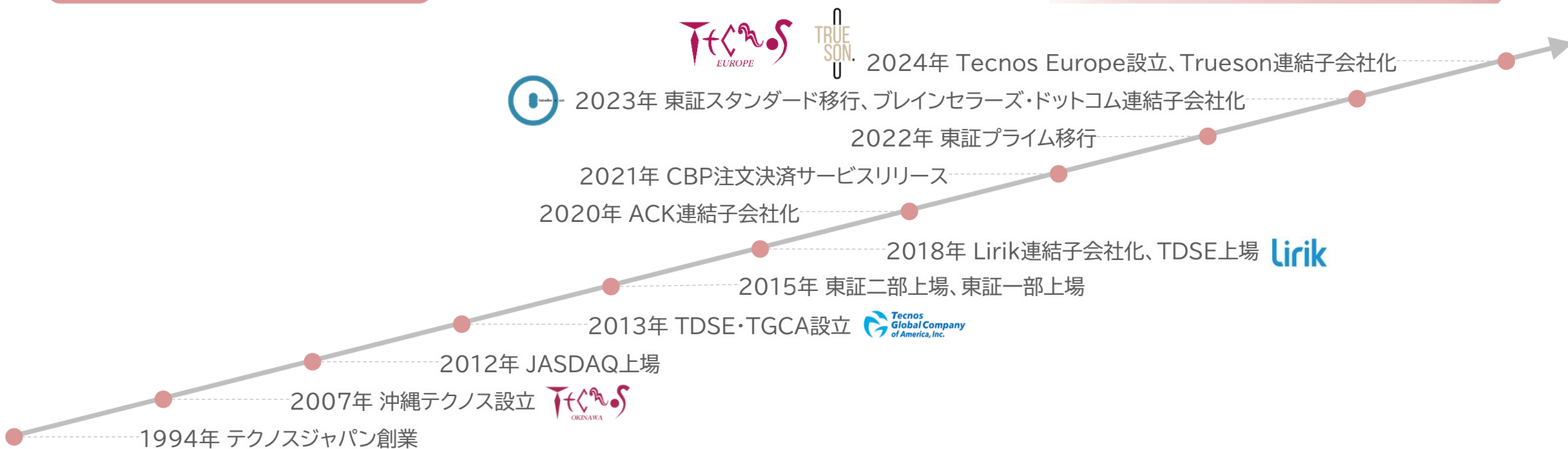
システム
コンサルティング&
インテグレーション

プラットフォーム

創業期からの第1の成長ドライバー：ERPソリューション

M&Aで確立した第2の成長ドライバー：CRMソリューション

自社開発の第3の成長ドライバー：CBPサービス



事業内容

テクノスジャパンは企業向け経営・業務システムにおけるDX推進事業を

DX=ERP×CRM×CBP と定義し、顧客の経営革新を協創する事業を展開

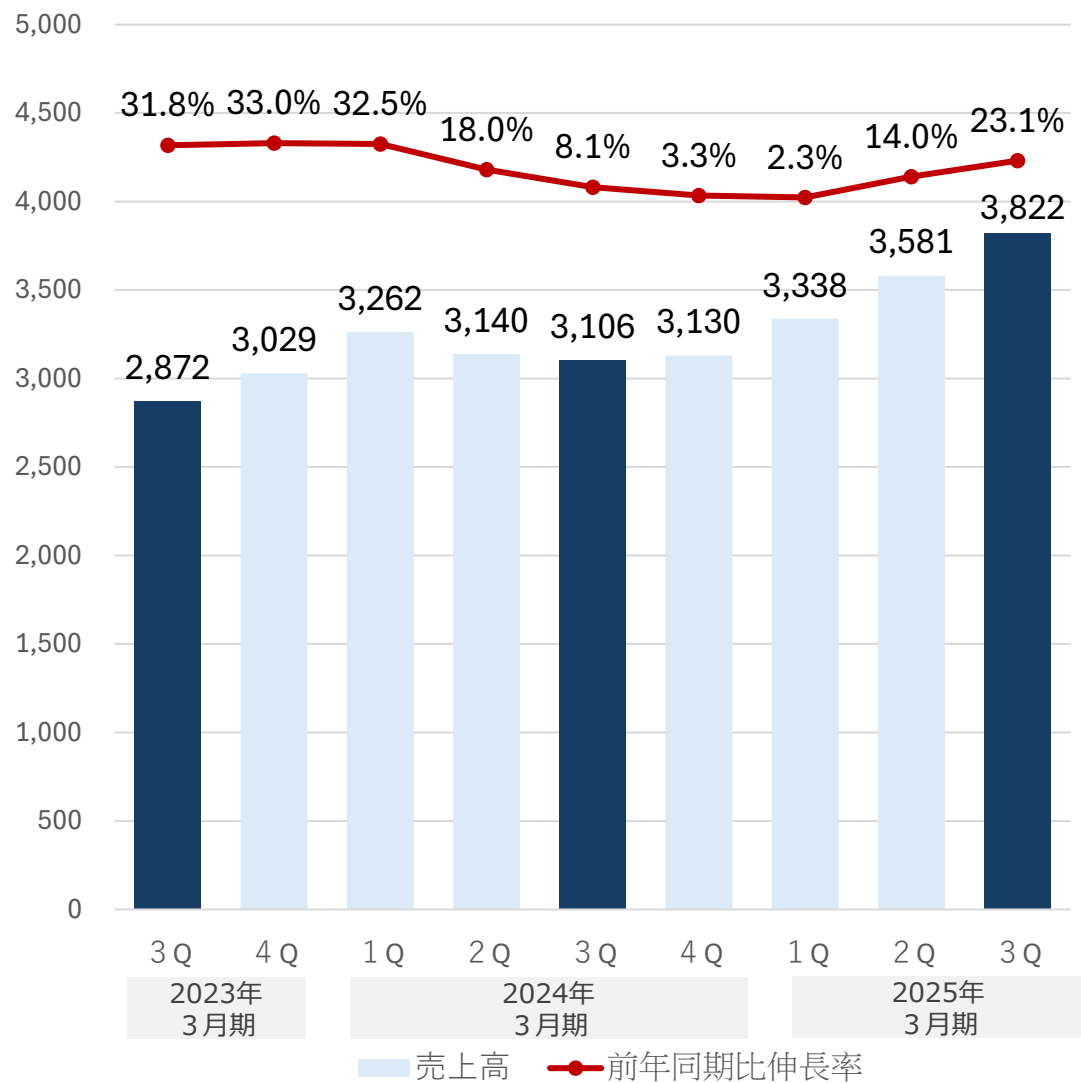
	ソリューション・サービス領域	ソリューション・サービスの特徴	テクノスが取り扱うパッケージ・サービス等
システム コンサルティング & インテグレーション (既存の基幹ビジネス)	ERP 基幹業務システム エンタープライズ・リソース・プランニング	世界規模で流通しているERPの導入・保守を質の高いコンサル力、技術力、サポート力で支援し、顧客の業務を改善 ERP:経営・生産・購買・在庫・販売・経理部門の「人・モノ・カネ・情報」を計画・実行・管理するシステム	<ul style="list-style-type: none"> • SAP S/4HANA • mcframe • Oracle NetSuite
	CRM 顧客管理システム カスタマー・リレーションシップ・マネジメント	世界規模で流通しているCRMの導入・保守を質の高いコンサル力、技術力、サポート力で支援し、顧客の業務を改善 CRM:営業・サービス部門の「人・モノ・カネ・情報」を管理し、顧客満足を高め、収益向上を図るシステム	<ul style="list-style-type: none"> • Salesforce • Veeva • IQVIA OCE
プラットフォーム (成長投資の新規ビジネス)	CBP 企業間協調プラットフォーム コネクテッド・ビジネス・プラットフォーム	企業間取引やサプライチェーン全体の効率化を実現するクラウドサービスの提供 CBP:当社独自の業務プラットフォーム 基幹業務システム(ERP)/顧客管理システム(CRM)の連携ソリューションとしても利用可能	<ul style="list-style-type: none"> • CBP

DXの世界における主要プレーヤーとして、
日本・北米・欧州の大手企業を中心に、
企業革新に不可欠なITソリューションを提供

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)

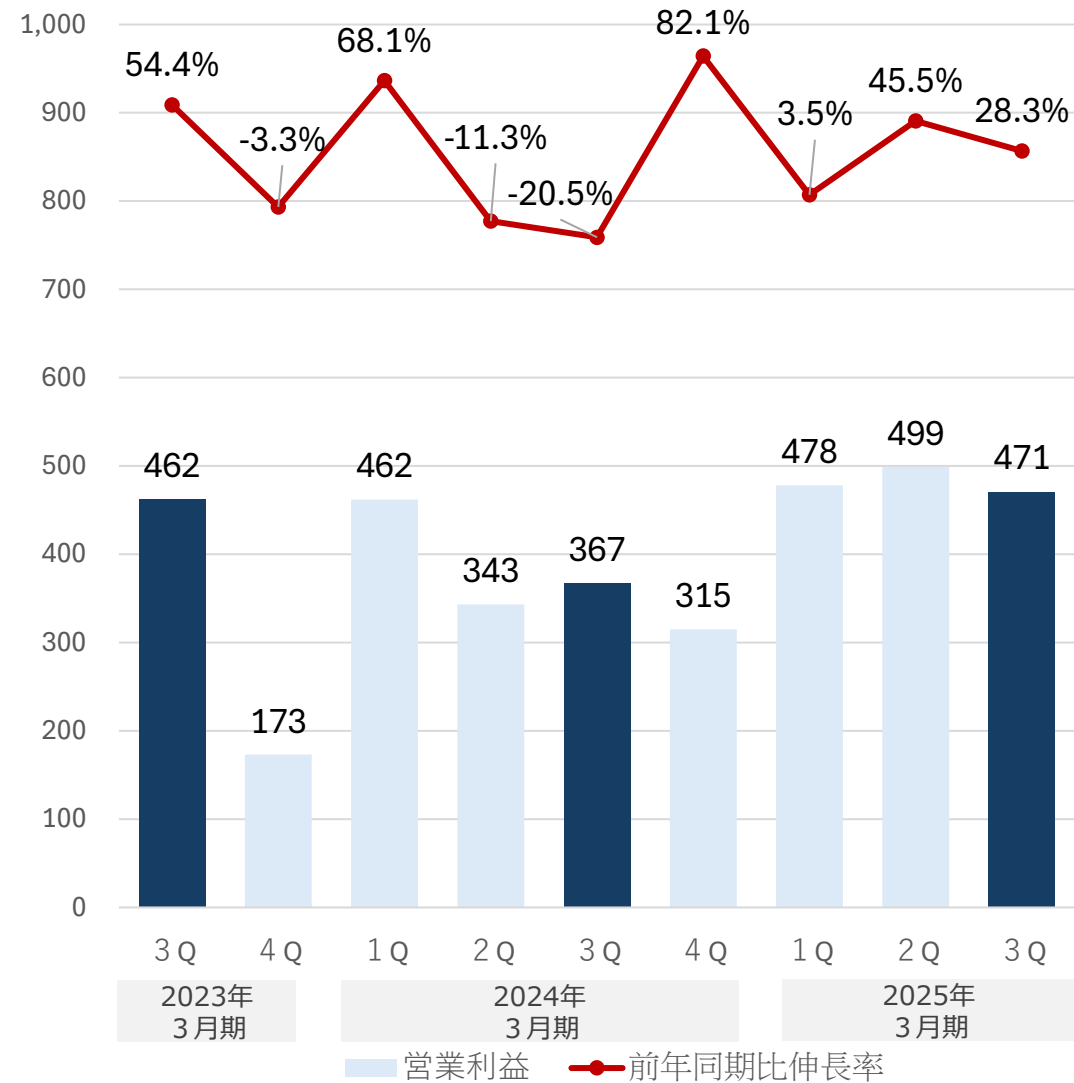
売上高四半期推移

(単位：百万円)



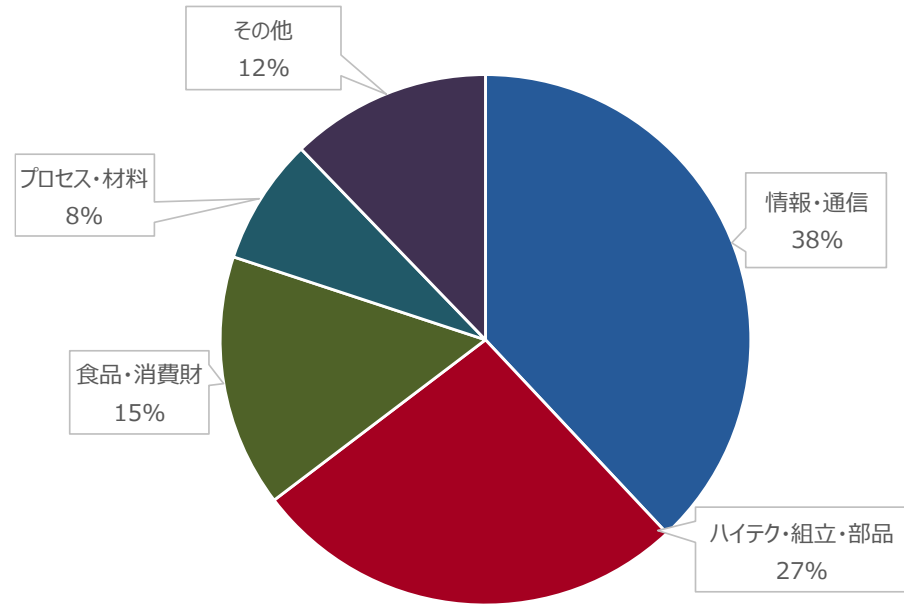
営業利益四半期推移

(単位：百万円)

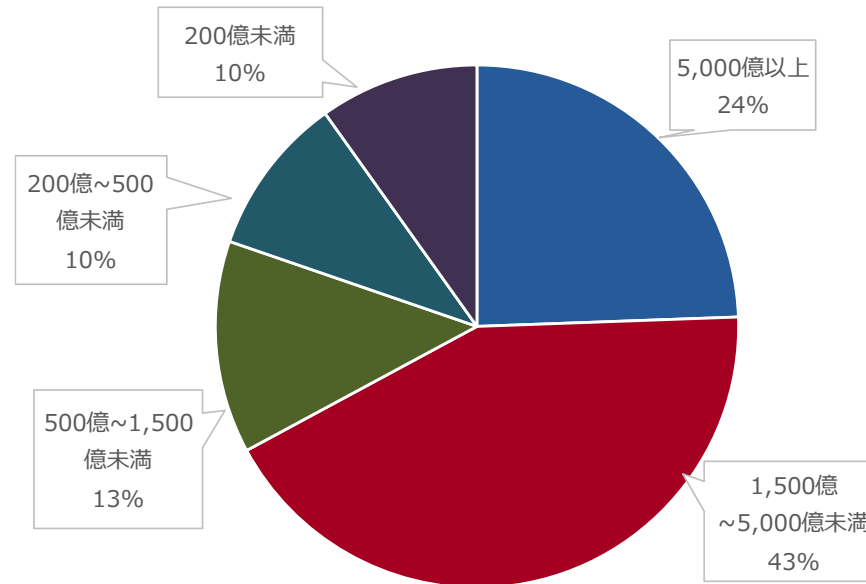


2025年3月期 第3四半期（累計） 売上高構成状況（連結）

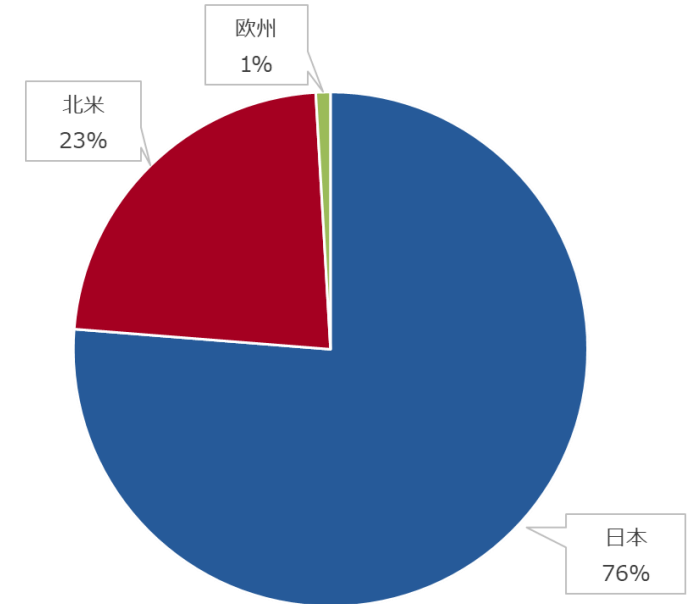
サービス先業種別売上高構成



サービス先規模別売上高構成



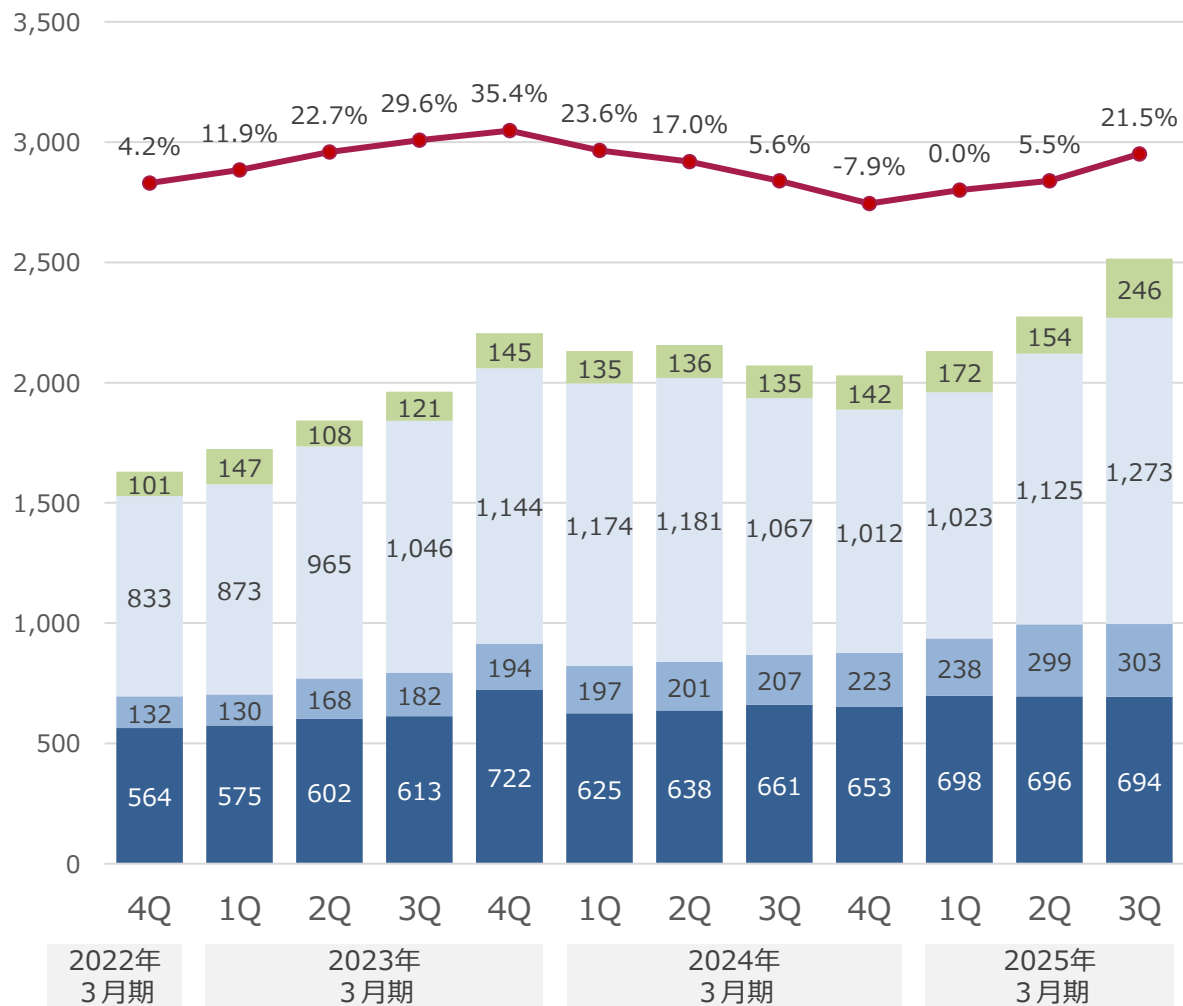
サービス先地域別売上高構成



製造原価 四半期推移 (連結)

製造原価の積上推移

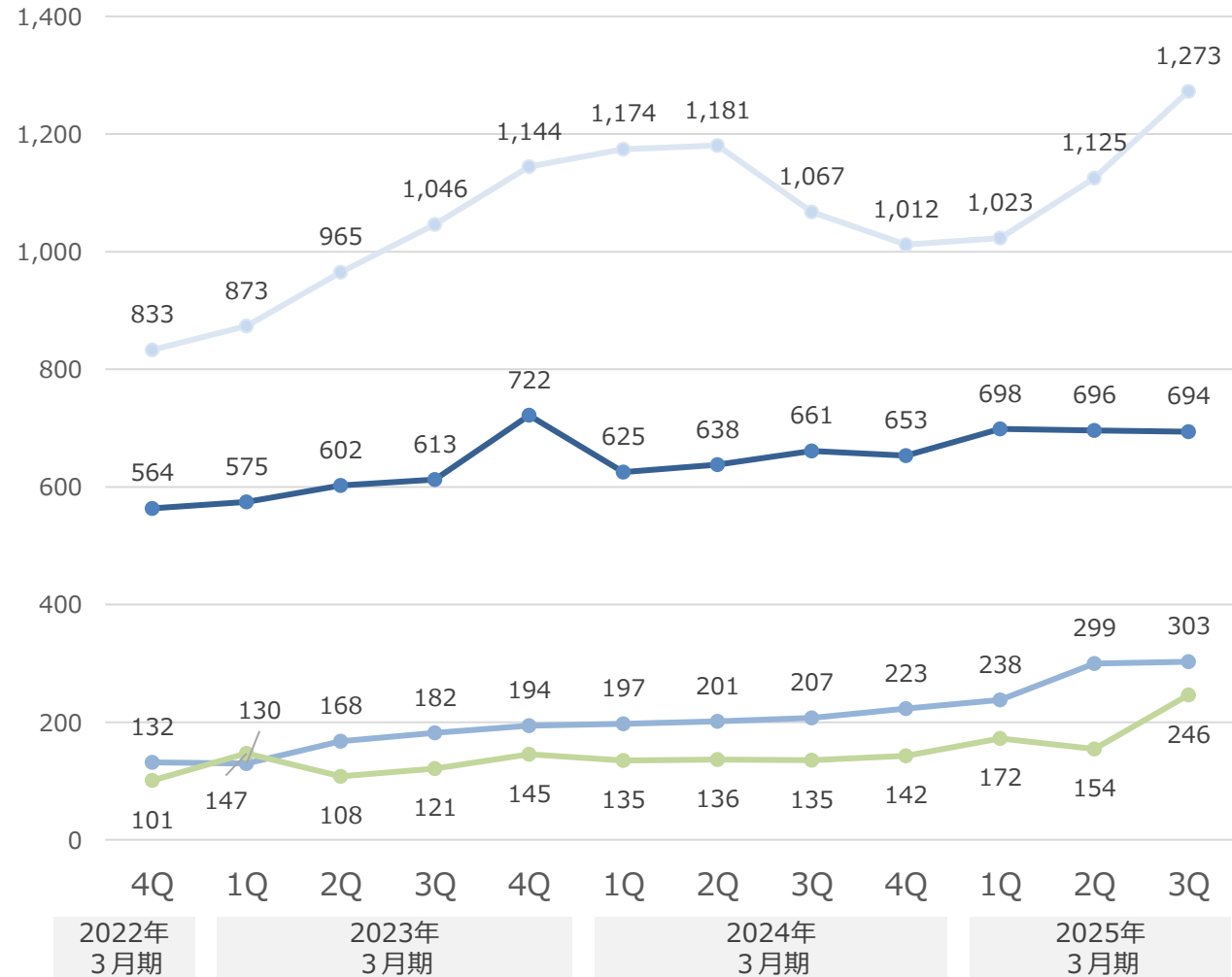
(単位：百万円)



■ 製造原価労務費：国内
■ 製造原価労務費：海外
■ 外注費
■ 製造原価経費
● 製造原価：前年同四半期伸長率

製造原価の費目別推移

(単位：百万円)

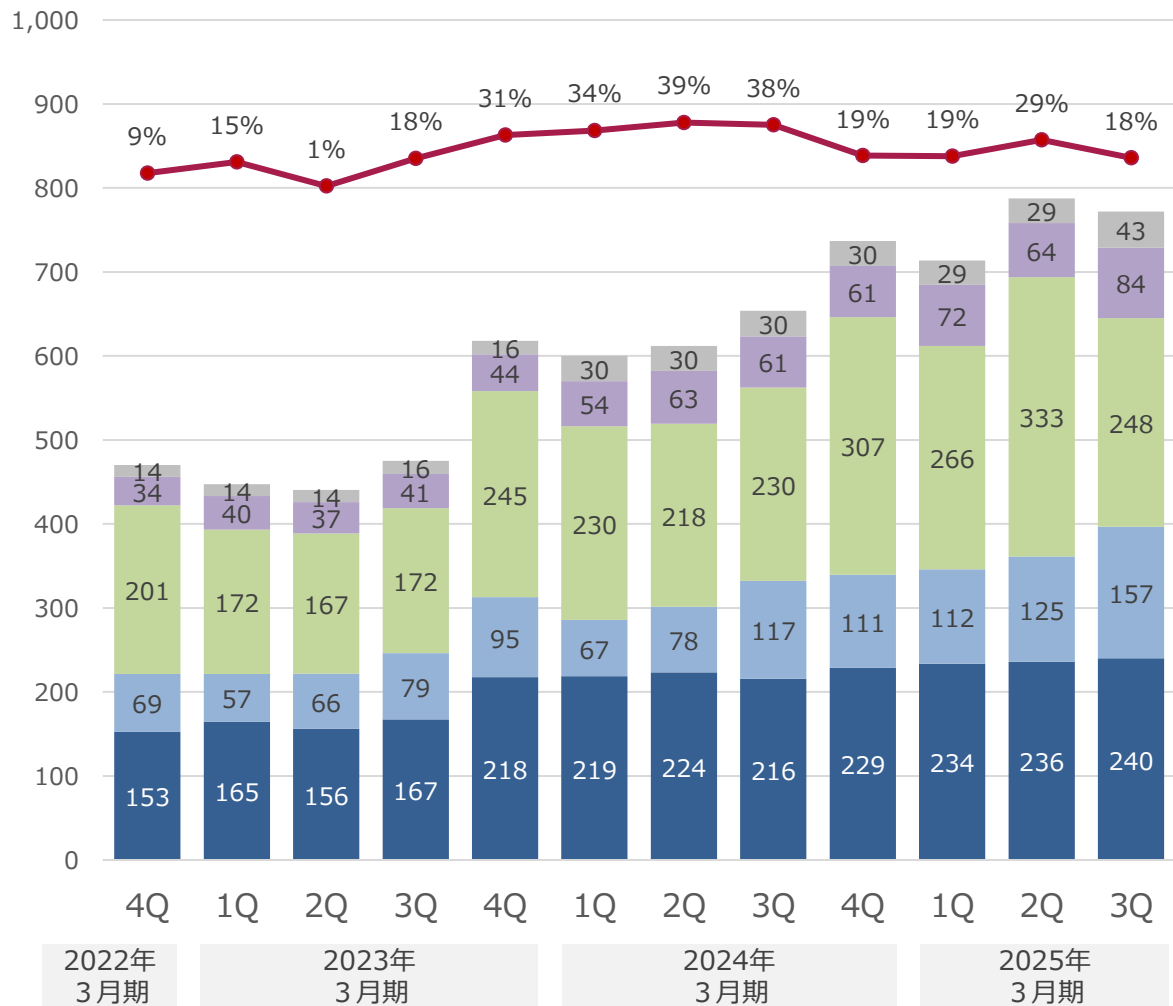


● 製造原価労務費：国内
● 製造原価労務費：海外
● 外注費
● 製造原価経費

販売費及び一般管理費 四半期推移 (連結)

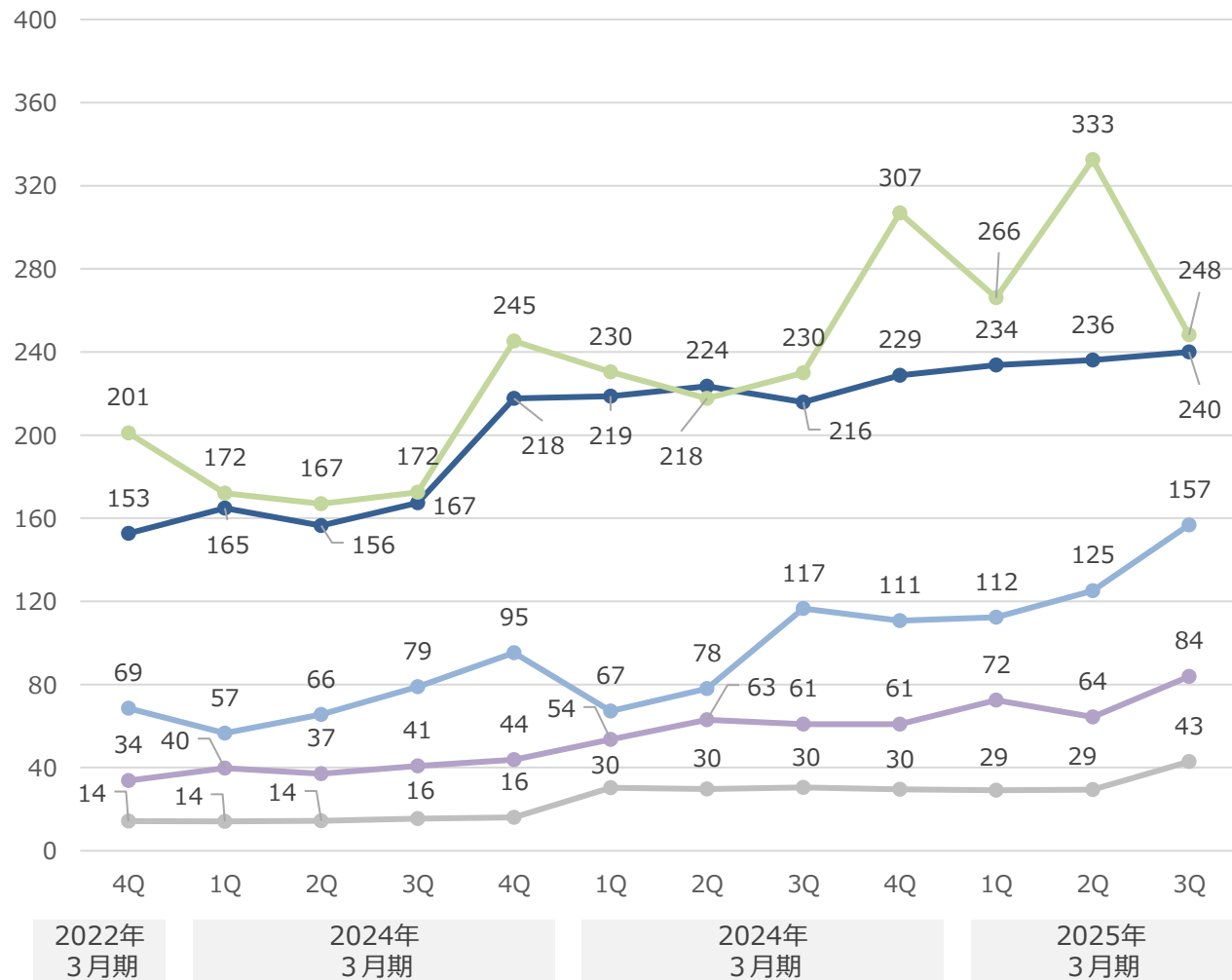
(単位：百万円)

販売費及び一般管理費の積上推移



(単位：百万円)

販売費及び一般管理費の費目別推移



■ 販管人件費等:国内
 ■ 販管人件費等:海外
 ■ 販管経費
 ■ 研究開発費
 ■ 減価償却・のれん償却費
 ● 販管費：前年同四半期伸長率

● 販管人件費等:国内
 ● 販管人件費等:海外
 ● 販管経費
 ● 研究開発費
 ● 減価償却・のれん償却費

企業理念 (MVV) / 持続的な企業価値向上と社会への貢献

MISSION (ミッション)

企業・人・データをつなぎ社会の発展に貢献する

VISION (ビジョン)

LEAD THE CONNECTED SOCIETY TO THE FUTURE
～つながる社会の未来を切り拓く～

VALUE (バリュー)

顧客志向・グローバル志向 / 個性融合のチームワーク / 創造、変革、改善

「企業向け経営・業務システムにおけるDX推進事業」
持続的な企業価値向上 / 持続可能な社会への貢献

社会の要請に対応した経営の高度化

- ESG経営
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 産官学、地域社会との協創の推進

事業活動を通じた社会課題の解決

- お客さまへのサービスを通して、「企業経営・業務の高度化」と「業界バリューチェーンのDX」を推進し、社会課題の解決に貢献
- 「ERP×CRM×CBP」を軸にクラウドサービスでつながる社会を目指す



多様なプロフェッショナルの活躍



イノベーションと協創で
社会を豊かに

デジタルで
循環型社会に貢献



社長プロフィール

【生年月日】 1976年11月16日

【出身地】 東京都

1999年4月 テクノスジャパン入社

2013年4月 当社東日本ソリューションセンター長
SCMグループ長

2014年10月 当社執行役員 東日本ソリューションセンター長

2016年4月 当社執行役員 西日本ソリューションセンター長

2016年6月 当社執行役員常務

2016年11月 当社ソリューションセンター長

2017年4月 当社執行役員社長

2017年6月 当社代表取締役執行役員社長

2019年6月 当社代表取締役社長

2023年4月 当社代表取締役社長執行役員（現任）



代表取締役 社長執行役員
吉岡 隆

免責事項

- 本資料にて開示されている、当社又は当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、将来の数値・数額、事実の認識・評価などといった、将来に関する情報をはじめとする歴史的事実以外のすべての事実は、当社が本資料の発表日現在入手している情報に基づき、現時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎としているものであります。
- また、見通し、予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提を使用しています。
- これらの事実または前提については、その性質上変化することがあり、客観的に正確であるという保証も、また将来その通りに実現するという保証もありません。これらの事実または前提が、客観的には不正確であったり将来実現しないこととなりうるリスクや不確定要因は多数あります。
- 従いまして、本資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

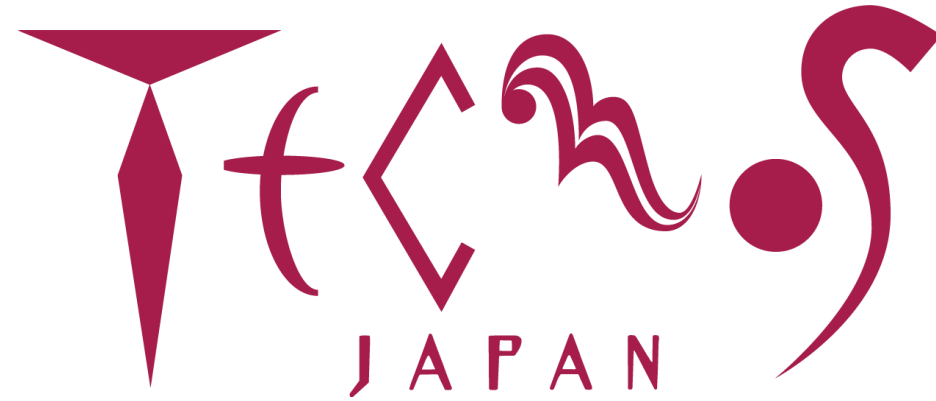
機関投資家・アナリスト様向けに、個別IRミーティングを受け付けていますので、下記メールアドレスへお問合せください。

株式会社テクノスジャパン 広報・IR担当

〒163-1414 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー14階

Mail investors@tecno.co.jp

証券コード:3666
株式会社テクノスジャパン



LEAD THE CONNECTED SOCIETY TO THE FUTURE
～ つながる社会の未来を切り拓く ～